

第3回懇話会における指摘・要望事項に対する回答

【資料1】

No.	担当課	指摘・要望事項	回答
1	水道整備課	<p>他都市の地震発生時の被害状況や、姫路市で耐震化されていない管路の延長、管種などはデータとしてあるのだから、姫路市に今後地震が発生した際に想定される被害状況は出せるはずである。また、AIによる劣化診断を用いた更新をされるということだが、これは日々の漏水には対応できるが、地震が発生した際に生じる被害は減らない。このように、管路更新率1.0%の達成年度を10年繰り下げたことによるデメリットを示してほしい。</p>	<p>姫路市地域防災計画では、最も被害想定の大い地震は山崎断層帯地震とされており、地震発生時の管路被害率は0.66箇所/kmと想定されています。管路の更新率1.0%の達成年度を令和26年度に10年繰り下げた場合、令和26年度時点で非耐震管延長が約88km増えることになり、同年度に地震が発生した場合、断水人口が約13,000人増えることとなります。</p> <p>このように管路の更新事業費を抑えるために管路の更新を遅らせることで、地震発生時の断水人口は増加した結果、市全域の断水が解消されるまで1日多くかかることとなります。</p> <p>現在の姫路市の復旧体制として、兵庫県を含む他都市との災害時相互応援に関する協定を締結しており、他事業者の給水車や水道業者の応援を受け入れる体制を整えています。また、緊急時に確保できる水量も最低でも32,000立方メートル・5日間分の応急給水量の確保が可能です。</p> <p>また管路の復旧にあたっては、市内の管工事業協同組合と災害時の応急復旧に関する協定を締結しており、市内水道業者等と協力して、姫路市上下水道業務継続計画に基づき、地震発生後30日以内に市内全域の管路の応急復旧を完了させます。</p>
2	水道整備課	<p>当初ビジョンの策定時に、漏水や地震が起こった時のバックアップ体制については議論されているが、財政的に整備できる管路に限られてくる中で、どのような管路を優先的に整備していくのか、ということについては現ビジョンの中で言及されていない。見直し後のビジョンの中で基本的な政策として管路の優先順位をどうしていくのか。</p>	<p>管路の更新優先順位</p> <p>○幹線管路 現在、甲山幹線、太子幹線など、配水池から延びる基幹管路の更新を行っています。今後、地震等の災害時に管への被害が発生しやすいと想定される市南部へ向かう幹線のうち、医療機関の近くを通る幹線を優先して更新していきます。</p> <p>○配水支管 基幹管路から病院・避難所などの重要給水施設へ延びる配水支管を最優先で更新し、令和16年度までに重要給水施設84箇所への配水支管の更新を完了させます。</p>